

タマカイ親魚養成 (タマカイ種苗量産養殖技術開発試験)

仲盛 淳・狩俣洋文・仲本光男・呉屋秀夫・大浜幸司^{*1}

1. 目的

新たな養殖対象種として大型ハタ類の一種であるタマカイの種苗生産技術を確立するため、親魚の養成を行い、安定して受精卵を大量に確保する技術開発を行い、本県魚類養殖業振興を図る。

2. 方法

平成 14 年度より飼育しているタマカイ親魚を 200kl 角形水槽で継続飼育した。餌は冷凍ムロアジに栄養剤（ヘルシーミックスⅡ：ビタミンクス E：乾燥胆末を 20:1:1 で混合）を餌重量の約 3%まぶし、土・日・祝日を除く週 3 回の給餌を行い、餌食いに応じて量を加減した。

2003 年 12 月 11 日に 20 尾を沖縄県栽培漁業センターから輸送し、新たな親魚候補として飼育した。輸送には酸素ポンベ（容量約 50 L、100 ～ 150kgf/cm²）を取り付けた 1kl 活魚タンク（1.2 × 1.2 × 0.7m）を用い、毎分 2L の酸素通気で貨物船にて石垣島まで運んだ。八重山支場に到着後、直ちに室内 60kl 八角形水槽に収容し、先に述べた給餌方法と同様に飼育を開始した。継続して飼育している親魚を大群、新たに輸送した魚を小群とした。

3. 結果

2004 年 3 月 29 日に行った大群の測定結果を表 1 に示した。参考として 2003 年 2 月 14 日の測定結果も表記した。No.5 がもっとも良く成長しており、約 1 年で体重が 12.38kg、全長で 100 mm の成長が見られた。一方、もっとも成長が悪いのは No.2 で、体重で 0.24kg、全長はほとんど成長していなかった。

表1 タマカイ親魚（大群）測定結果

No.	03 年 2 月 14 日		'04 年 3 月 29 日	
	全長 (mm)	体重 (kg)	全長 (mm)	体重 (kg)
1	1,047	25.67	1,058	27.16
2	1,096	25.02	1,096	25.26
3	1,016	21.51	1,034	21.68
4	853	14.84	914	18.79
5	1,045	23.89	1,145	36.27
6	1,044	24.57	1,107	29.43
7	1,159	34.36	1,195	35.91
8	935	19.87	989	25.47
平均	1,047	25.04	1,067	27.50

小群では栽培漁業センターからの輸送中に死亡した個体はなかったが、支場到着時に 2 尾が腹部の膨満により浮上横転していた。飼育水槽収容前に注射針により腹腔内のエア抜きを行ったところ回復した。その後の飼育結果を表 2 に示した。飼育開始から約 3 ヶ月で平均体重が約 1kg 増加し、死亡する個体は見られなかった。

表2 タマカイ（小群）測定結果

測定日	飼育日数 (期間)	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	肥満度	期間給餌量 (g)	日間給餌率 (%)	日間増重率 (%)	増肉 計数	餌料転換 効率 (%)
2003/12/26	0	525	3,355	21.0	—	—	—	—	—
2004/01/27	32	559	3,723	21.4	14,180	0.6	0.3	1.9	52.0
2004/02/26	62 (30)	566	3,812	21.1	11,910	0.5	0.1	6.7	14.9
2004/04/02	98 (36)	589	4,256	20.8	22,453	0.8	0.3	2.5	39.6
積算	98				48,543	0.7	0.2	2.7	37.1

*1 非常勤職員

